

## 第2回 佐伯市立幼稚園及び小・中学校教育問題検討協議会 議事要旨

1 開会

2 会長挨拶

宮崎会長が挨拶を述べた。

3 説明・報告

### 第1回協議会について

配布資料を基に事務局が第1回協議会の内容について報告をした後、各委員が現時点における佐伯市立小・中学校の再編についての考え方を述べた。

4 議事

#### (1) 市立小・中学校の再編（統廃合等）に関するアンケート調査について

配布資料を基に事務局がアンケートの依頼文書及び設問について説明をした後、質疑応答を行い、修正を加えた上でアンケート調査を実施することとした。

#### 【質問・意見】

委員	未就学児、小学生の保護者を対象としたアンケートの設問に、「習熟度別指導や専科指導等の多様な指導形態をとることができる」とあるが、習熟度別指導や専科指導について説明を加えたほうが良いのではないか。
委員	中学校に関する設問において、「習熟度別指導や専科指導等の多様な指導形態をとることができる」とあるが、中学校では既に専科指導なので、そこは見直しをしてはどうか。
委員	問1「あなたの年齢について教えてください」とあるが、これは年齢をどういう目的で聞くのか。
事務局	どの年代の方がどういう思いが多いのかということを知りたいという思いがあった。
委員	アンケートがきたときに、父親、母親、両方おられるところは、母親の回答が多いのではないかと思うが、父親と母親で意見の差があるのではないか。一番良いのは世帯で話し合われて、回答していただくのが一番いいと思う。もしかしたら、どちらか父親、母親で回答したら、回答が変わってくるのではないか。
事務局	確かに父親と母親で意見が違うことがある。このアンケートの中に、できればご家庭の中で話し合っていただいて、1つの意見として、家庭の中から1つの意見をお願いしますとアンケートの調査協力のお願いというこちらの方に加えたい。

委員	このアンケートで、問3などでどこの小学校に行きますか、どこの中学校に行きますかとあるが、本来、佐伯の子どもたちなので、佐伯の小学校、中学校、高校に行って欲しいための今協議をしていると思うが、中には市外、県外の小学校、中学校、高校とかに行かれるお子さんの家庭もあると思うので、この問3に「その他」の欄をつけて、例えば、学校名は書かなくていいと思うが、「その他」に印が入れば、佐伯の学校じゃないんだなど、子どもたちが減少している中でなおかつ佐伯の学校に通わないんだという現状もわかるのではないか。
事務局	「その他」を付け加えて、アンケートを実施したい。
委員	13ページのこの図式のところが、後々とても重要になってくるというふうに自分の経験から思う。特に学校再編をしてことでのその五つが、とてもこの後、これから何か指針になるべく大きな中身になっていくのではないかと思う。違和感があるのが、3つ目の「クラス替えができることとなります」という表現は、これはこのまま入れていいのかどうか、大丈夫かなと心配がある。
事務局	書き方を検討して、調整したい。

## (2) 先進事例の視察地の選定について

配布資料を基に事務局が説明をした後、質疑応答を行い、アンケート調査の結果を踏まえ、本市における再編の方向性等を決めたのちに、視察を行うこととした。

### 【質問・意見】

委員	<p>まず視察をしてから、佐伯市の統廃合を考えしていくという手順になるのか。</p> <p>この事例に挙がっている自治体では統廃合のやり方が全然違う。小学校を中心に統廃合しているところと、中学を整えてというところと、全然スタイルが違う。佐伯市が目指す統廃合と似たようなやり方のところに行った方が良いと思うが、その辺はどんな手順でするのか。</p>
委員	<p>今、委員が言われたように、まだ佐伯市が幼、小、中をこういうふうに統合していくという方向性が決まっていない。今から11月に保護者にアンケートをとるのであれば、その保護者のアンケートをとって、アンケート結果を見ながら、こういうふうな幼、小、中の統合を佐伯市はしていけば魅力があるのではないかなど、とりあえず佐伯の方向性を決めるのが先なの</p>

	ではないか。
事務局	<p>この視察の時期については、いつのタイミングでするのかといふのは実際に悩んだところである。今後、再編を考えていくにあたって、どういったことをしていかなければならないのかなどをある程度最初の段階で、視察をした上で他市の状況などを踏まえて、佐伯市の再編の取組を作っていくのはどうかと思ったところもあったことから、このタイミングでの提案となつた。今委員のおっしゃるとおり、アンケートをとつて、佐伯市の再編の方向性や考えを整理した上で、それに応じた視察地を再度検討して、視察を実施するということであれば、委員さんの思う形で、考え方直したいと思う。</p>
委員	<p>事務局が考えられている、これからどんな手続でとか手はずでやろうということと、今こちら側で検討していることは、内容が違うような気がする。どんな手續とかどんな課題が出てくるのかというのは、事務局の方でもいくつか行かれてもいいのではないかと個人的には考える。</p> <p>委員としてこういうところに行ってはどうかというのは、またその後で、2段階というのは難しいのか。</p> <p>他市がどのような課題、再編するときにどのような課題が出てきたとか、今回、佐伯市はアンケートを取ろうとしているが、それ以外にどういったことを進めて、それがよかつたか悪かつたか、そういうのは事務局側として、やはり知つておくのは、何か今後の流れを作るのには必要なことではないかなと思う。</p> <p>ただ、先ほどから意見が出ているように、まだこの協議会 자체がどこに向かっていくのかがわかつてないのに、1つに絞つて行くというのはまだちょっと早いかなという気がする。</p>
事務局	<p>今回のこの提案については、現在の時点では行わずに、また再度提案させていただくというような形をとらせていただきたい。</p>
委員	<p>統合して大きい学校になるところもあれば、統合しないでそのままの学校もあるわけですけども、あるいは義務教育学校のように小中一貫に変わるとか、私が知りたいのは、そうやって大きくなるとか、統合される学校は一生懸命新しい取組をすると思うが、そのままの学校もやはりその市全体で、教育をもつと革新していくという意味で、残された学校も非常にいい取組を始めているとか、両方とも考え方を一新してやっているよう</p>

な地域、市の取組を聞きたいと思っているので、いろいろ調べていただきたいと思う。

### (3) 今後の取組について

配布資料を基に事務局が説明をした後、質疑応答を行い、今後の取組を決定した。

## 5 協議

### 【質問・意見】

委員	<p>保護者や地域住民の方には、なかなかご理解いただけないとと思うが、市の財政、市全体の財政をやっぱり考えていかないといけない。ある市町村も財政破綻して、統廃合どころの問題ではなく、もう医療福祉にも及んで、大変な問題になっている市町村もある。</p> <p>小さな学校でも1校に非常に維持管理費、人件費、ものすごいお金がかかっているということだけはわかっていたからかいと。もちろん小さな学校を残したいという気持ちもものすごくわかるんだけども、市の財政が破綻してしまったら、もうどうしようもないような状況に今からなると思う。</p> <p>ある市では、市長が変わって、前の市長は統廃合しないというのが公約でしたが、今回の市長は、もう財政が成り立たないので統廃合しなきやいけない、ご理解いただきたいというふうな形で、検討委員会を立ち上げたところもある。</p> <p>本当に小さい学校もものすごくいいんです。いいんですけど、そのところは、やはりここにいる委員さんの方はそこも考えておかないと、なかなか難しい。</p> <p>だからといって小規模校が駄目だというのではなくて、言ったように小規模校も見ていくとすごく感動する。とても子どもたちが育っているどこもいっぱいあるのでそのところが、非常に難しいなと考えている。</p>
委員	<p>市の財政がやっぱり大事なので、そのことはもう一番だが、どうしてもやっぱり私の今までの経験から、小規模校で勤務していたので、大きい学校に出て、適応できる子はいいんですけど、適応できなくて、帰ってきて、小規模校でいきいきと活躍している子なんかの顔をたくさん思い浮かべた。その辺のこと もやっぱり大事に考えていただきたいと心から思う。</p> <p>やっぱり地域の力というのがあると思う。高校で馴染めなくとも地域の力で、復活して働くような子もいるし、その辺の</p>

	ことを知恵を借りながら、いい方向にいっていただきたいと思う。
委員	<p>発達障害のお子さんが最近多くなっていて、それに対応する特別な教員とかも、人手不足で、なかなか対応できていない。あとはやはり不登校の問題がある。統計を見ていないが、やはり大きい学校に不登校が多いのか、それはある意味で、人数が多いので仕方ないのか、あるいは小さい規模であれば、不登校は防げる可能性が高いのか。</p> <p>また発達障害についても、小規模の方が目が行き届いて、やりやすいのか、それともやはり教員不足で、小規模であろうと大規模であろうと非常に発達障害の子どもを支えるのはなかなか難しいのか。現場の教員の方々からお話を聞きたい。</p>
委員	<p>人数が多いから不登校が多いかと言ったら、そうでもない。ただ、不登校の傾向であるとか、学校には来れるけど教室には行けないという児童も一定数いる。そういう子は教育支援ルームを学校の中に別に作って、そこに通うということも今やっている。いろんな学年の子どもたちが、教室に行けないけど、こそこそと行けるということで、だから、潜在的に、不登校ではないけど、教室に行けないというお子さんも一定数いるが、これは大規模校だから多い、小規模校だから1人もいないかとかそういうことはない。</p> <p>学校に行けないというのは、お子さんによってはその建物がもう駄目とか、小さい建物だろうが大きな建物だろうが、もうその学校という建物が合わないで、教室の人数も多いと駄目という子もいるし、音が、大きな声が駄目とか、あるいは先生うまくいかないとか、それはもう小規模校でも大規模校でもありえるから、何が原因かというのは非常に不登校は、見つけづらい。それを解消したとしても学校に来れるかといったら、そういうことでもない場合もあるから、なかなか、大規模校だから、小規模校だからということにはならないと私は思う。</p>
委員	不登校は、学校規模が原因ではないと思う。本当にいろいろな要因なので、小さい学校だから行ける子もいる。だけど、だからといって、行けるとは限らないし、逆に大きい学校に行つた方が安心して、たくさんの仲間がいてよかったですというのは、小さい学校はある程度人間関係が固定化されたりするので、逆にそれが駄目で、大きい方に行った方がよかったですとかも、様々

	<p>なので、学校規模イコールで不登校が多い、少ないというのはない。</p> <p>ただ支援の必要なお子さんについては、やはり小さい学校だと、先生がその分配配置されないので、特別な指導を受ける場がない可能性もある。それはあるかと思う。</p>
委員	<p>不登校については、学校規模は関係ないと思う。子ども同士の人間関係の問題であったり、教職員と合わないというのもあるし、家庭での問題というのもある。</p> <p>支援が必要な子どもについてですけど、これも大規模校と比例はしないかもしれないけど、やっぱり数が多いだけに、そういう子どもたちは多いと思う。だけど、佐伯には小さな学校にもかなり支援が必要な子がいる。支援が必要な子どもが小さい規模の学校にも結構たくさんいる。増えてきたという実感を持っている。</p>
委員	<p>大きい学校だから不登校が多いとかそういうことはないと私も考えている。小さい学校で先生とは合わなかつたりしたらもう逃げ場がなくなってしまうので、そういうこともあるかなと思う。教職員の方の研修もまだまだ足りてないので、これからも一生懸命精進することが大事かなとは考えている。</p> <p>ただ子どもによってはやっぱり小さい学校の方がいいという子もいますし、大きい学校の方がいいということもあるので、子どもが自分に合ったところ、合った環境を選択できるということが大事なのではないかと思う。</p>
委員	<p>県内の小中高の支援学校をまわってきたが、大規模だから多いとか、小規模だから少ないということはない。今、インクルーシブ教育で、例えば特別支援学級適などの子どもが通常の学校に来ている。やはりそういう子どもたちを1人の先生で見るのはもう不可能に近い。そういう中で、できるだけ先生を多く配置していくということが大事になってくるのではないかと考えている。ですからやはり先生の数を増やすということも考えていかなければならない。統廃合も含めて、そういう形を取っていくということも大事。</p> <p>ただ、小規模校は小規模校のよさがあって、例えば、玖珠町に学びの多様化学校ができた。ある程度教育課程を8割程度にして、授業している。いつも今、本匠中とか、本匠小とかものすごく一生懸命、先生方が地域を含めて、頑張っている姿を新</p>

	聞で拝読している。そういうところも含めて、特認校というのはやっぱり子どもが増えなきやいけない。だから、大規模校の校長先生と本匠中の先生、校長先生が話をして、小規模校の方がいいなっていう保護者と連携したり、そういう連携も含めて、小規模校は小規模校なりに特認校で残るわけですから、そういう学校同士の校長先生も含めてつながりもあって、特認校が特認校として育っていく。こういう地域を大事にした学校を作っていくということも、それも進めていかなければならぬのではないかというふうに考えている。
委員	<p>高校でいろいろな子どもたちの状況変化を見ていくんですけど、最近、特に少し増えたなというのが、自信をなくし、自信を持っていないというか、他者と自分の違いというのを必要以上に気にして、そして何かこう、自分が動けなくなってしまうという、そういうケースが増えてきたかなと。そういう子もたちによく、まだ、データを取っているわけではなく根拠はないが、ねばならないということに縛られてしまっているような状況というのが多々感じられるような気がする。</p> <p>自分の子どもたちも、妻の実家が田舎の方なんですけど、そのおじいちゃん、おばあちゃんに会いに行くとほっとした顔をする。なんていうか、どんなことをやってもいい、お前はいい、いいっていうような、そういう存在というのが、これからこの地域に求められて、佐伯の強みっていうのは、これからそういうところに出てくるのかな。だから地域の温かさが、例えば保護者の方がどういうふうに今、コミュニティを作られているかとか、そういうことが今度学校とまた一体となって影響していくのかなというふうに今思っている。今日、いろいろな意見を伺いながら感じた。</p>

## 6 その他

第2回佐伯市立幼稚園及び小・中学校教育問題検討協議会の日程は、後日決定し、事務局から各委員に連絡することとした。

## 7 閉会